

# 株式市場に転機は来たか

日本経済研究センター主任研究員  
前田昌孝

- \*読まれる記事は一日残る電子版
- \*外国人投資家の買いが支え
- \*10兆ドルに近づく四大中銀の総資産
- \*日本は米国の6倍テレビを買う？
- \*外国人の売買はオースドックス
- \*サービス、小売りで最高益統出
- \*リスク要因の金利上昇、原油高騰
- \*縦割り無責任社会というリスク
- \*世界に通用しない日本の物づくり
- \*人生選びは中立的な制度で



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は日本経済研究センターの前田さんにおいていただきました。前田さんは4回目ですの  
で、もうご紹介の必要はないと思いますが、日  
経で証券部記者として活躍された後、日経セン  
ターに移られて、研究者とジャーナリストを両  
方やっておられるような感じですね。単なる相場  
論ではなくて証券市場のバックグラウンドをい  
ろいろお話しくださいますので、「日本経済を  
見る目」についてお聞きすることになるうかと  
思います。

前田 昌孝  
前回は一昨年の10月で「株式浮上の条件を探  
る」という題をとんでもなく厳しいときに無理  
してつけていただきました。今日は「株式市場  
に転機は来たか」です。1月末にお願いしたと

きはちよつと上がり始めた頃で「転機は来る  
か」でよかったのですが、今だと「来たか」で  
すね。

前田さんにこれで5回ご講演いただいた中で  
は、今回もまだ株価の水準としては1万円台に  
定着していませんから大したことはないのです  
けれども、今まででいちばん期待が持てそうな  
ときでして、今日は気楽にやっていただきたい  
と思います。それでは前田さん、よろしくお願  
いします。（拍手）

前田 いつもお招きいただきましてありがと  
うございます。日本経済研究センターの前田昌  
孝でございます。先ほど、控え室で1年半前  
にお邪魔したときに比べて髪の毛に白いものが増  
えた指摘されましたけれども、本当に日本経